



私たちはどう生きるか

副校長 高橋 宏彰

昨年、スタジオジブリの宮崎駿監督が映画『君たちはどう生きるか』を発表し、話題となりました。私はまだ観ていませんが、同名小説の吉野源三郎さんの書籍は今から30年ほど前(大学生の頃)、古書店で購入し、読んだことがありました。この本の初版は1937年(昭和12年)ということで、不透明で、硬直化しつつある時代に、自分たちがどのように生きるのかを一人一人に問う、哲学的な児童書だったと記憶しています。コペル君はおじさんに導かれながら、自分自身のこと、世の中のことを深く考えようとしていました。

先日、ロンドンオリンピック 卓球女子団体に銀メダルを獲得した平野早矢香さんに白金小学校に来ていただきました。そして、5年生に対して、夢や目標をもつこと、努力することの大切さなどについて話していただきました。平野さんは幼い頃から「卓球で日本一になるという目標」に向かって、地道に努力を重ねてきました。きっとたくさんの挫折や苦勞があったことでしょう。中学生の時には、「何十年に一人」などと言われるライバルたちと自分を比べ、悩み、くじけそうになったそうです。しかし、高校生の時に、他の人と比較するのではなく、自分自身の日々の成長に注目するように視点を変えました。そしてその後、平野さんは高校生の時に全日本ジュニア選手権で優勝することができたそうです。

現代社会は、先行きが見えにくく、何を指ししたらいいのか、どんなことが必要なのかが分かりにくくなっています。また、さまざまな価値観、真偽不明の情報が飛び交う中で自分自身を見失いそうになります。

○自分の人生の軸となる夢や目標をもち、それに向かって邁進する。

○他者との比較ではなく、日々の自分の努力や成長を信じる。

私たちがどのように生きたらいいのか、正解の見えない混迷の時代だからこそ、この2つが大切なのだとあらためて思いました。

～ 令和6年能登半島地震義援金へのご協力、ありがとうございました ～

児童の声から実現しました義援金募金活動を令和6年1月15～18日(計4日間)に実施しました。代表委員会の5年生児童が中心となり、全校児童に呼びかけました。保護者・地域の皆様にもご賛同・ご協力いただき、心から感謝申し上げます。

今回の募金活動で**365,037円**をお預かりしましたので、1月23日(火)に白金台郵便局より「日赤令和6年能登半島地震災害義援金」として納めてきました。引き続き、白金小学校では安全教育はもちろん、緊急時に互いを支えることの大切さなどについても指導してまいります。

よりよい学校生活をつくる 白金小学校の子どもたち

特別活動主任 佐々木亮太

今年度、運動会をはじめ様々な特別活動の取組を実施することができました。その成果をいくつか紹介します。

「委員会活動」では、よりよい学校生活のために、できることを話し合い、どの委員会も積極的に活動することができました。代表委員会では、SDGsの視点をもって古着を集めたり、能登半島地震の募金を行ったりする様子が見られました。保護者の皆様につきましては、活動への御協力を感謝いたします。

「クラブ活動」では、それぞれの興味関心を尊重し合いながら活動することができました。図工クラブでは、異学年で構成されたグループを作り、協力して一つの作品を作り上げる様子が見られました。

「学校行事」では、運動会を通して、目標に向かって仲間と協力して粘り強く取り組むことや勝敗を受け入れることの大切について学びました。音楽会では、音楽の学習の成果を一つの形にして発表しました。その過程で、自分や友達の良さに気付くことができました。プラチナタイムでは、6年生を中心として、異学年交流を活発に行うことができました。下級生への思いやりのある言葉かけや態度が見られ、思いやる意識の高まりが感じられました。

このように、年間を通じて様々な活動を通して、多様な考えに触れることで、よりよい人間関係について学び、協働的な活動の大切さを知ることができました。引き続き、白金小学校の特別活動を充実させ、よりよい学級・学校生活を目指していきます。